



言葉プロレス



リングアナウンス

江頭2：50が好きだ。

もう、どうかと思うくらい好きだ。

ロックンロー大好きだ。

半径3メートル以内に入ってほしくないけど

大好きだ。

エガちゃんがテレビに出てくるだけでドギマギする。

エガちゃんが穿いてる黒タイツに片腕を突っ込んで
コチンのあたりをおもいっきり突き上げながら

「ドーンッ！！」

「ドーンッ！！」

って叫ぶたびに

“ウヒョッ”

と思う。

「ドーンッ！！」

“ウヒョッ”

「ドーンッ！！」

“ウヒョッ”

って、何度でも思う。

どんなに落ち込んでいる時でも、理屈抜きにゲラゲラ笑けてくる。

自分の周りを包んでいた気だるいモヤモヤが

エガちゃんズナックルに突き破られてフツ飛んでいくのがわかる。

イイナァって思う。

エガちゃん

イイナァって

スゴク思う。

オレも誰かを“ウヒョッ！”って思わせてみてえよって

心底思う。

だから

あなたの“ウヒョッ”に挑戦させてもらってええですか？

エガちゃんの真似をしてもしょうがないから

オレはオレのやり方で

エガちゃんとはまた違った種類の“ウヒョッ”をあなたからもぎ取りたい。

日頃から

“おまえらチヤホヤされすぎてて気に入らねえっ！”

ってムカついてるものと

言葉を使ってヒツチャカメツチャカ格闘して

あなたの“ウヒョッ”をもぎ取りたい。

こっちが正しいとか

なにかを変えるとか

共感

感動

癒しとか

よくあるそんなもんはどうでもよくて

とにかく

あなたの“ウヒョッ”をもぎ取りたい。

もしも

「とれるもんならとってみいや私の“ウヒョッ”をナメんなよ。」

と、極道の妻的なテンションで興味示してくれたならありがとうございます。

引き続きページをめくってやってください。

八百長あり

ガチンコありの

本邦初公開

言葉プロレスの始まりです。

選手入場！！



VS ポジティブ

ヤイ、ポジティブ！

おまえ世間様からおだてられてえらいエエ気になってんちゃうか！？

やれ成功の秘訣はポジティブ思考だの

やれ何事も前向きにとらえて明るく生きようだの

そんな言葉や歌がげんなりするほど耳に飛び込んでくるわ。

えらい重宝されてるやんけ。

でもな

みんながみんな

おまえのことを好きと思うなよ！

と、偉そうに息巻いてるオレも

昔は若さのアホさでおまえのこと大好きやったわ。

ポジティブ最高！

なんでも前向きに考えて

明るく楽しく暮らそうぜ！

みんなが幸せでありますように。

なんてPOPなことを

屈託もなくすがすがしく思ってたわ。

でも

そんな明るい気持ちで毎日を過ごしてるとなにかが違う。

何か大切なものを見落としてる気がしてきて

ザワザワザワ

胸騒ぎ。

ホンマに、ポジティブ、おまえだけで大丈夫？

って疑問を胸に抱いている時に

元アメリカ大統領・レーガンの娘、パティ・デイビスが書いた

『わが娘を愛せなかった大統領へ』

という本を読んだんよ。

その本に書いてたことをまんま鵜呑みにすると

パティは多感な時期に母親から虐待を受けてたらしくて

パティは辛くて悲しくて、でも自分の力じゃどうしようもなくて

母親の暴力をとめてくれとレーガンに助けを求めたんやと。

それに対してレーガンは

「お母さんは優しくて良い人だ。」

の強気一点張りでちっともとりあってくれずでダメ父さん。

そんなパパレーガンをパティは

「厳しく辛い現実から目を逸らし、楽しい現実が存在するかのよう
自分に信じ込ませてしまうことができる驚くべき能力の持ち主。」

と評してた。

わかる。

レーガンの気持ち、わかる。

なんでもかんでもポジティブにとらえようとしすぎると

イヤなことややっかいなことから

目を逸らしたくなる。

うんにゃ

まるでなかったことのように無視して揉み消してしまうことさえある。

ポジティブすぎるん怖え～。

オレがおまえに対して感じてた違和感はこれやったんか。

よく考えたら
日々生活していると前向きでも後向きでもなく
痛みをだましだまし横向きぐらいで
付き合っていかなあかんこと山ほどあるもんな。
涙をこらえて上向いたり
小銭を探して下向いたり
色々と工夫して毎日をなんとか凌いでいかなあかんもんな。

それに
イトコ取りばかりはズルいもんな。
ネガティブのないポジティブ
絶望に支えられていない希望
ウンコをしないと張り上げるアイドルは
嘘臭くて薄っぺらいもんな。

なんでんかんでんいちいちややこしい。
と困惑しているところにさらに追討ち。

ポジティブ、おまえをもう一度根本から考えさせられる話に出会ってん。

VS ポジティブ2

聞いてくれるかポジティブちゃん。
それはたった一人のガキ大将・岡本太郎に
死期が迫っていた頃のエピソード。

太郎さんは
アルツハイマー病を患い自分の体を自分の意志で
コントロールできなくなってきたことを嘆き

恋人であるトシコさんに

「僕が岡本太郎でなくなったら、その時は自殺するよ。
でも、そうなった時には自殺をすることすらできなくなっているのかな」

と激烈ネガティブなことを呟いたらしい。
そしたらトシコさんは

「なあに、心配いりませんよ。
その時は私があなたを殺してさしあげますよ」

と返答。
ベリネガティブに対してベリベリネガティブ返し。

でも、なんでやろう？
なぜだかとっても愛がありんす。
金玉から胸の奥までみなみなさまがキュッとなりんす。
不覚にも愛に串刺しされた気分さポジティブさん。

もしもね
もしもトシコさんが

「なにを弱気なことを言ってるんですか。
もっと前向きに病気が治ることだけを考えてください。」

なんてポジティブ模範解答をしてたら

太郎さんはもっと落ち込んでたんちゃうかな。
わからんけどね。
本人じゃないから。

でもね

これは自信を持って言える。

時に

予定調和なポジティブは残酷で

痛みを引き受けたネガティブは優しい。

もちろん

いっつもそれが正解なわけじゃなくて

カラッとポジティブ

シトッとネガティブ

ネットッとセンシティブ

人間色んなものが欲しい生きもんで

その時々状況判断で

リスクをしょって

一か八かの勝負に出ないとアカンのやろうけど

ポジティブ、おまえばっかがヒーローってことはありえんやろ？

「あなたを殺してさしあげる」

時と場合によっては

こんな言葉にまで愛を込められんねんもん人間は。

時と場合によりけり

ポジティブにもネガティブにも

ミソクソナスカスにも

愛を織り交ぜられるんやもん人間は。

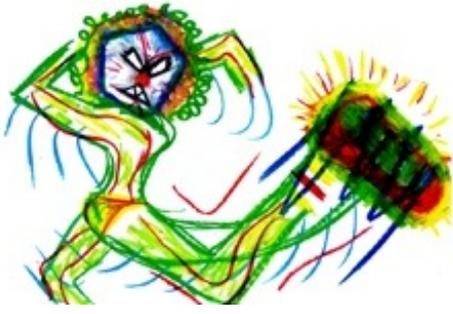
ねえ、ポジティブ。

きっとポジティブとネガティブはつながっていて

私は不幸な分だけ幸せなんでしょう？

切り離されてしまったポジティブに

水平チョップ！



VS 奇跡

もしもし“奇跡”さん。

僕、時々

「生きるということは、奇跡なんだ。」

って、目をキラキラ輝かせて言っている人を見かけます。

恥ずかしながら

僕も時々はそう思います。

「生きるってのは奇跡のように素晴らしいな」

ってなんのてらいもなく思えることがごくごく稀にはある。

んで

実際のところ本当にそうなんだろうなと思う。

生きてるってのは奇跡のように素晴らしいことなんだろうなと。

でも

性格の悪いオレはこうも思う。

素晴らしいのと同じ分だけしんどいよな、って。

この間

バンドをやっている友達と

部屋で酒を飲みながら

エロエロ話や

噂話や

日々の不満話に

花を咲かせていたら
時間に吞まれて
気がつきゃすっかり空も薄明るくなっていて
夜明け前独特の変なテンションに迷い込み
底の浅い哲学者ぶった話になってきた時に
その友達が

「オレらの世代は

その日を生きのびることにガムシヤラだった昔の時代の人達と違って
生活面に関してだけ言えば

高望みをしなければ衣食住の揃った生活をしていける時代に生まれた。

だから

昔の人達と違ってオレ達は生きることへの欲求が希薄だ。

時代が変わってしまったから当然価値観もズレてくる。

生きのびることが大きな目標ではなくなったオレたちは

次の新しい価値観を手に入れなくちゃいけない。

自分と向き合い

自分を手探りで探し出し

自分なりの価値観を

創っていかなきゃいけない。

でも

それがしんどい。

どうしたって新しいモノを創ろうとすれば

昔の価値観とぶつかるし

周りの友達も

どんどんと恋人や家族のために

働かなきゃいけない現実が迫ってきて

昔の世代が作った世界の枠組みに組み込まれていくし

やりたいことをやり続けるしんどさも身に染みて

そいつらの気持ちもイヤになるくらいわかってしまうし

うまくいかないことだらけで

時々、なにもかもにウンザリする。」

っていう長セリフを吐いたんです。

僕はその長セリフを

バランスボールに腰掛け、金玉袋を揉みほぐしながら聞いていたんですが

それを聞きながら

“やっぱりみんな同じようなことを考えてんねんな”

と気づいて

同士を見つけたようで嬉しくなって

それよりさらに
切なくなりました。

食べてる途中だったカップヌードルシーフードの汁を

コキュリと飲んで友達に差し出し

「豊かな時代に生まれて

気楽に生きてるように見えるオレらだってなにげにいつでも崖っぷちよな。」

と言うと、友達は

「なにげにって言うか、リアルに崖っぷちっす。

高層ビルの屋上とか見つめてる時あるっす。

ラーメン。カレー味はないの？」

と返答。

生まれてきたこと

生きていることは

確かに奇跡のようにスゴイことなんやけど

いつもいつも

生きてる奇跡に感動なんかしてらんない。

日々、生きてると

下痢の日なんかじゃウンコのシミつきパンツを

死んだ魚の目をして洗わにゃならんし

友達死んだり

親が病気になったり

肉体衰えてったり

法律違反を犯して煩悶したりで

ヘロヘロシナシナちんちくりん。

晩飯うまいのが唯一の救いの日だってある。

多々ある。

いつもいつも
生きてる奇跡に感動なんかしてらんない。

そんなことしてたら
それこそ

生きてる奇跡が台無しだ。

押し付けられた“奇跡”に

ローリングソバット

だらしない毎日がたまらない。



“救い”さん。

おまえさん

ホントに甘美でドラマチックな響きだねえ。

正直言って昔はおまえに憧れてたよ。

“救いたい、救いたい、あたりかまわず救いたい”

って欲情してた。

だってねえ

孫悟空なんて地球を3・4回も救ってんだから。

憧れて憧れて

オレも誰かにとっての孫悟空になりてーよって

“救い”さん、あんたに胸キュンしてた。

そんな胸キュン高3時代に

オレのつまらん救いたい願望をゴッシャゴシャに壊す

モロ好みの小悪魔に出会ったんす。

“救い”さん

あんたを語る上でどうしても外せない

この小悪魔とのB級恋愛茶番劇

他人の恋の話なんてかったるいだけでしょうが

少しだけ聞いてもらってもいいっすか!?

梅田で見つけたその小悪魔は
仲良くなって話を聞いてみると
元カレにストーカーされてて男性恐怖症気味の
年上女子大生だってんだから
その当時のオレにとっちゃ、カモネギ。
どころか
カモがネギしょって
豆腐・ゴマダレ・ガスコンロをスーパーの袋に入れて
玄関をノックしてきたぐらいの絶好球。
この球振らずに何を振る。

ってなもんで
十代ですしね

おしつけがましくウブですからね。
がんばったよオレ
“救い”さん、憧れのあんたを手に入れるために。

その子の悩みも愚痴も延々聞いて
なんなら元カレしばきにいかか！？
ぐらいの若さの勢い余った一人よがりの
正義の提案かましてみたり。
受験シーズンの大切な時間を割いてガンガンがんばりましたよ。

その結果
少しずつ心を開いてくれて
タイトル付きのおはようメールなんかも入ってきだして
これはもうちょい待って告白しちゃえばいけんじゃない！？
っていうか告白されんじゃない！？
っていうかいきなりキスとかされんじゃない！！
って一人でウカレポンチになってる時に

世の中、美味しい話はそうそうないもんで
なんの前ブレもなく

いきなり音信不通になりましたわな。

VS 救い2

メールは返信なくなり
電話もエンドレスコーリング。

これはもしやストーカーになにかされたのかも心配で心配で
心配ダイエットできるくらいの神経のスリ減りよう。

ホッソリ。

鉛筆持つ手もティンポ握る手もおぼつかない。
これはいかん。
このままじゃこっちが心労過労で倒れちゃう。
もう連絡とれんでもいいから
とりあえず元気で暮らしてくれてたらそれでいいから
なんとかそれだけでも確かめたくて
試しにツレの携帯から電話してもらったら
普通に元気な声で出ちゃったよ。
オレ、何回かけても出んかったのに。

とりあえずツレには「間違えました」って切ってもらって
その2分後、自分の携帯からかけたら出ませんわな。
滑らかに、予定通り。

ボツ。
僕はその時初めて自分の中に
憎しみの炎が燃え上がる音を聞きましたよ。
メロドラマの主人公気取り、満開。

かわいさ余って憎さ100倍とはこのことか。
ストーカーになにかされたんちゃうやろか。
事故にでもあってないやろか。
病気になって入院してないやろか。
そんな無意味な心配してた自分がアホみたいで
コケにされたみたいで

怒り
こみ上げる。
拳
突き上げる。

怒りとは攻撃の感情じゃなくて
守りの感情だということを身を持って理解する。
自分をあまりにも傷つけられたら

怒らずには自分を守れない。

「ワレ、なにしくさっとんねん。

こうなったらオマエが電話出るまで昼夜問わず電話かけまくったるか！
なんなら家まで行ったるか！」

と脳内細胞竹内力になってから、ハッと我に振り返り気づく。
アップネー、ミイラ取りがミイラになるとこやったやんか。
被害者と加害者は紙一重やんか。

これが

人がストーカーになっていく時のひとつのパターンなんか！？

恐ろしや。

ここは我慢、我慢。

彼女の気持ちもわからんでもない。

男にひどい目に合わされたから

心が近づきすぎると、また傷つけられるかもって

怖なって逃げだしたくなったりするんやろな。

っていうか

オレが気づかん内に何かイヤなことをしてもうたんかな。

きっとそうやな。

だから、ここは我慢我慢・・・

できるかーい！！

と何度も爆発しそうになる心を鎮めるために

夜中に河原に行って奇声をあげたり

さんざんバカにしていた失恋ポップソングを永遠リピート

おもらし並みに布団を涙で濡らしたりして

なんとか怒りをおさめて

気持ちの整理がつき始めた頃に

再びヌケヌケと女から連絡があり

「あの時はゴメン。私どうかしてた。自分で自分が許せない。」

的なベタな謝罪あり。

オレもオレで未練タラタラ、タラちゃんなもんやから

テヘヘって笑ってついつい許しちゃったら

しばらくしてまた音信不通になって
ちやぶ台ひっくり返してって
そんな十代にありがちな
エネルギーあり余った恋愛フルマラソンを
あと2・3度繰り返す内に

さすがにアホなオレも学びました。

VS 救い3

人は人を救えんのだな。
その人を救えるのは、その人自身だけなんやな。

と。

どんなになにかしてあげたくても
自分の力で自分のタイミングで
はじめをつけなアカンことだって山ほどあるもんな。

好きやけど
好きやから
なにもしてあげられない。

人を救いたいなんて
気軽に傲慢に思ってた自分に電気アンマ。

彼女は

人を上から目線で救ってやろうなんて
思い上がっていたオレを叩きのめすために
オレの前に現れたのかしらん？

なんて都合のいいこと思ったりして。
なんてこたない。
同じ甘えを持ったもん同士が
引き寄せあって出会っただけ。

“救い”さん。
その子と出会うまでのトンマなオレときたら
あなたのことを

高貴で清らかで美しいものだと思ってました。

そんなわきゃなくて
あなたはもっと泥臭くて

激闘・死闘・腐れ縁みたいな言葉の先にある
マッチョなもんなんですね。

お手軽
抗菌パックされた
リスクのない“救い”に

バックドロップボム

そんな救いならいらね。



VS 幸せ

ティッ！

“幸せ”！ティッ！

なあなあ、おまえってそんなにエエもんか？
正直、幸せそうな奴って
おもんない奴&うっとおしい奴かなり多いで。

グラビアアイドルとかが雑誌のインタビューで

「私、今、毎日が楽しくて楽しくて幸せいっぱいなんです！」

とか答えてたら

「知らんがな！」

って心の中で毒づいて

そんな毒づく自分にも嫌気がさして

二重で嫌な気分させられるし

“幸せ”の象徴のような結婚式だって
タブーが多くて、臭いものに蓋して
みんながみんな
祝福するイイ人の仮面をかぶらなアカン感じで苦手やし。

幸せって、なんか窮屈じゃね？

結婚式帰りの電車の中で
あの女がかわいかっただのブサイクだの

みんなでわいわいドげすい話をしてる時の方が
よっぽど爽やかで心地良くね？

幸せで満ち足りてますって顔した奴よりも
ヒリヒリするような不幸せを笑い飛ばしてる奴の方が
よっぽどカッコイイし
生きてて心底ガッツポーズしたくなる瞬間っていうのは
ありあまる幸福の中からはなんかじゃなくて
ドン詰まりの不安や孤独の中から

反転
産み出されるものと

ちゃいますのん！？

んでもって
もっというなれば

幸せはん。

人間がホンマに欲しいのは
幸・不幸で分けられるようなチンケものではなく
そんなものを軽々と超えてく
澄みきり
晴れわたった
永遠の一瞬なんちゃいますの！！

それは

たとえば

自分が飛び散るほどの恋心とか。

世界が笑って見えるくらいの静寂とか。

つまりは
そう

幸せかどうかなんてどうでもいい。

あなたとは
まるで関係のないところまで
ブッ飛んでみたいのよ。

幸せはん
あなたはみんなが言うほど大切なもんじゃないんやないの？

過保護にされすぎた幸せに

ギロチンチョーク

幸せかどうかなんて、忘れてるくらいで丁度いい。



いよいよ“愛”と闘うことになったかい。
みんな大好き“L O V E”ちゃんと闘うことに。

昔のオレはやね
恥ずかしながら
“愛”ちゃん
あんたのことを

甘くておいしくて
とろける生クリームみたいなもんやと思っていた。

でも

自分なりに
恋して愛して
想いに想って
悩み多き思春期を走り抜けて
今思うことは
“愛”は甘ったるいだけじゃあかんのね。

甘ったるいのが欲しくて
ケンカを避けて
自分を押し殺して
テヘへと笑ってたら
少しずつ
少しずつ
自分が死んでった。

周りを愛したくって

エヘへと笑ってたら
いつの間にか
周りを憎んでた。

空前絶後の
本末転倒
お馬鹿さん。

どこでなにを間違えたんやろうと
こんにゃくゼリーを食べながら

プルンプルン考えてたら
当たり前のことに気がついた。

オレはごまかしてただけやん。
“愛”って言葉に逃げて
自分の心に嘘をついてただけやんか。

もっと自分を愛することと
相手を愛することの狭間に立って
ギリギリのバランスに迷って悩んで
やりたいもんはやりたいねんって
できへんもんはできへんねんって
さらけだして
ぶつかり合わなあかんやん。

愛する人とは
愛すればこそ
ぶつかり稽古。

自分に嘘をついて
愛する人を憎んだり恨んだりせんでもええように。

なんでも
いいよいいよって
笑って許してたら
そんなの人間様じゃなくて仏様。

人間として生きてる意味ないやん。

親とも
友達とも
恋人とも
自分が自分であるために
あなたがあなたのままであるために
闘う度胸と覚悟をもって
押し合いへし合いどつき愛。

ほんに
ほんに
本当に
“愛”は
美しいだけじゃなくて
嬉しいだけじゃなくて
優しいだけじゃなくて
痛くて
怖くて
めんどくさくて

それでもやめられない
なにもものにもかえがたい

全力のコミュニケーション。

許し合い
分かち合い
微笑み合うだけの愛に

メガトンパンチ！

優しいだけの愛が一番残酷かもしれない。



いかがやったでしょうか？
本邦初公開の言葉プロレスは。

楽しんだりムカついたり毒づいたりしてもらえてたら
今日のビールが一段とおいしくなるんですが。

しかしね
それにしてもね

ここ一週間くらい
自宅にこもって
ほとんど誰とも会わず
一人でずっとゲームをしたりご飯を食べたり
散歩をしたりしながら
この本を仕上げたんですが
なんというか
あれでんな

世界が閉じていくというか
消えていくというか
だんだんこの文章とかも
誰に向けて
なんのために書いてんのかとかも
よくわからんくなってきて
結局は未来の自分に向けて書いてるだけなんかな
とか思い出したりして
イヤイヤ
というかもはや未来の自分に対してですらなく
今ひとりぼっちの自分に向けての独り言か。
なんて思い出したらもう止まりません。

結局は人生なんて長い長い独り言か。

なんて
危ういことまで思いだして
育児ノイローゼならぬ
一人ノイローゼ。

でもしかし
意外と気分はたおやかやわらかおだやかで
酒なんて飲みだしたら
ますます上機嫌になって

「一人酒って酔い回るんが不思議なくらい早いよね」

なんてポツリポツリとつぶやきだして禁断症状。

「オイ、もっと酒持ってこい！」

「ハイ、ただいま。」

酒を出せと怒鳴るのもオレで
しとやかに持ってくるのもオレ。

一人ぼっちやから
一人二役
どっちもオレ。

そんなオレって誰？

とかいう
一番考え出したらキリがない質問まで飛び出して
開かれたるはパンドラの質問箱。

っていうかオレって何？

っていうかおまえ誰？

おまえはオレか？

オレがおまえなのか？

なんて具合に頭がグラグラフワフワしてきて
世界の境界線があいまいに
ユラユラあいまいに
あんまりにも
あいまいになったらトロリン
自分が流れ出し

溢れ出し
溶けてゆき

雪。

白い水平線が発光したら
世界はスン。
空
空
虚空の出来上がり。

ねえ。
ホントは
世界中どこを探したって
出会ったことのない人なんていないんでしょう？

ホントのホントのところ
ボクらは
いつだって自由なんでしょう？

でも
僕らはすぐにそれを忘れて泣きじゃくる。

思い出しては忘れ
忘れては思い出し

くりかえしひるがえしゆれうごく。

寄せては返す波のように。
寄せては返す記憶の涙。
寄せては返す胸の谷間。

おっぱい。

柔らかくいこう。

「いっぱい」の「い」を「お」にかえたら

おっぱお

